

## 和歌山県主催「ロサンゼルス和歌山フェア」事前説明会への プロモーションアドバイザー派遣

2021年8月、プロモーションアドバイザーの日本食文化振興協会の二見義之氏（以下、「アドバイザー」）を、和歌山県が主催するセミナーの講演者として派遣しました。以下、派遣の概要についてご紹介します。

### 1 派遣概要

- ・日 程：＜1回目＞7月28日（水）：課題及び講演内容の共有  
＜2回目＞8月10日（月）：セミナー講演
- ・派遣方法：1回目、2回目ともにオンライン
- ・アドバイザー：日本食文化振興協会 専務理事・事務局長 二見義之 氏
- ・派遣先：和歌山県
- ・派遣内容：和歌山県主催「ロサンゼルス和歌山フェア」事業者向け説明会にて、ポストコロナにおける米国食品市場について講演

### 2 「ロサンゼルス和歌山フェア」事前説明会の概要

- ・日 程：8月10日（月）10:00～11:30
- ・構成：前半はアドバイザーによる講演、後半は同フェアの運営委託事業者による「ロサンゼルス和歌山フェア」の概要説明。
- ・対象者：ロサンゼルス和歌山フェアへの参加に関心を持つ、飲食事業者
- ・主旨：和歌山県は2022年5月に米国ロサンゼルスで現地日系スーパーマーケットと連携し、加工食品を主とした販路拡大のため、「ロサンゼルス和歌山フェア」を開催予定。同フェアの事業者向け事前説明会にて、ポストコロナにおける米国食品市場の状況や輸出を検討する事業者が踏まえるべき事項について、現地の知見を有するアドバイザーから最新の情報を入手し、事業者及び同県担当者の米国市場に関する理解及び意欲を深め、市場に合った効果的な販促活動の実施に繋げようとするもの。

### 3 セミナー講演内容

講演アジェンダは（1）米国におけるコロナウイルス感染状況、（2）米国市場の構成、（3）日本食を取り巻く環境の変化、（4）米国への輸出の概要、（5）アフターコロナに向けての5つでした。

（1）米国におけるコロナウイルス感染状況については、セミナー実施時点での米国西海岸や東海岸の直近の感染者数やワクチン接種率についてお話しいただきました。新規感染者数はワクチンの接種率と関係しており、ワクチン接種に肯定的な民主党支持者が多い州は感染者数が減少していて、反対にワクチンに否定的な共和党の指示者が多い州は感染者がいまだに多い状況とのことで、米国ならではの地勢的な要因について言及されました。

（2）米国市場の構成については米国国勢調査（2020年実施）の結果を示されながら、米国の最新の状況をお伝えいただきました。調査結果から、米国在住のアジア系の平均収入が白人系の平均収入より高くなっていること、日本食が消費されている主な地域（州別）はカリフォルニア、ニューヨーク、フロリダなどであること、日系企業が多い場所はカリフォルニア、テキサスなどであるとのことでした。

また、一般的に日本食の米国への販路開拓には現地スーパーではなく日系・アジア系ス

ーパーなどを通すほうが取り組みやすいとの助言を頂きました。現地スーパーの場合、仮に商品が現地バイヤーの目に留まったとしても彼らが求める注文内容（物流、納期、数量など）に対し、即座に対応ができる日本側のメーカーが少ない現状があるとのことです。

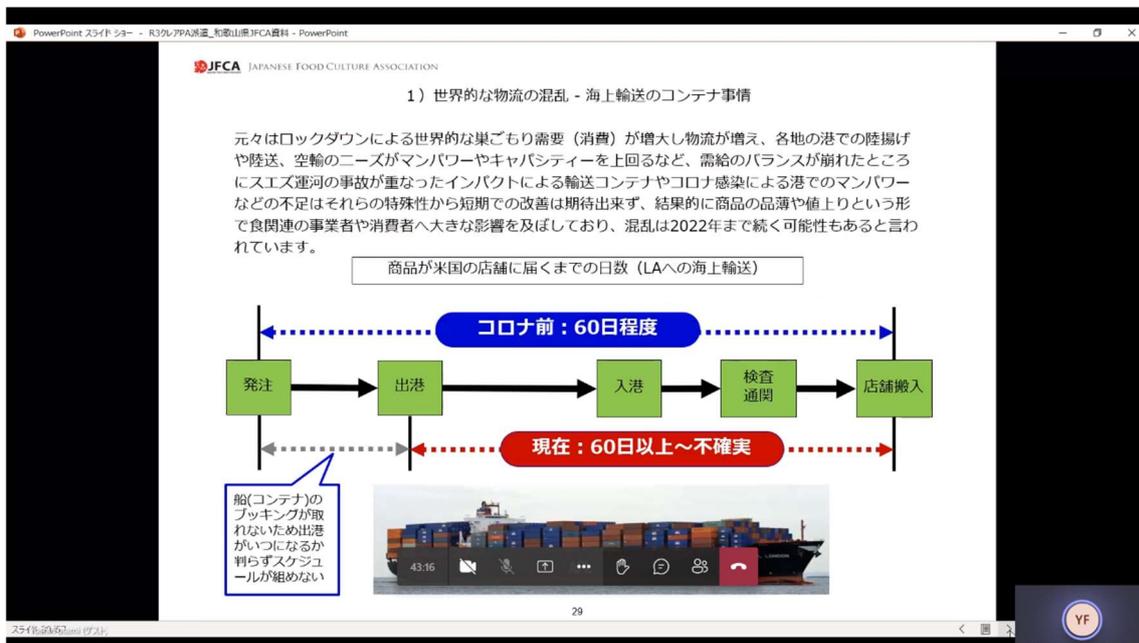
（3）日本食を取り巻く環境の変化については、米系のメガストアの特徴や店内の様子、売れ筋商品や価格などについて、アドバイザーが現地訪問時に撮影した写真と共にご説明いただきました。

（4）米国への輸出に関しては、講演当時、貨物船（コンテナ）のブッキングがとれないために海上輸送の遅れが生じていることや、米国輸出に伴う規制やルールについて説明がありました。

最後に（5）アフターコロナに向けて、今後の米国食品市場の展望をお話いただきました。20代半ばから30代半ばにかけてのいわゆる「ミレニアル世代」が消費をリードしていくことが予想され、また、SNSやECを活用した一般消費者向けのイベントが増えていくのではないかとの見解を示されました。

## 4 和歌山県からのコメント

セミナー後、和歌山県からは「米国向けの日本食輸出に関する最新状況について、幅広い観点から非常にわかりやすく、また、短時間で抑えるべきポイントについて講義をいただいた」とご感想をいただきました。



オンライン派遣の様子

弊協会では引き続き、専門的知見、ノウハウ、経験をもつアドバイザーの派遣を通して、自治体の海外プロモーションを支援してまいりますので、ぜひお気軽にご相談ください。

（経済交流課 清水）